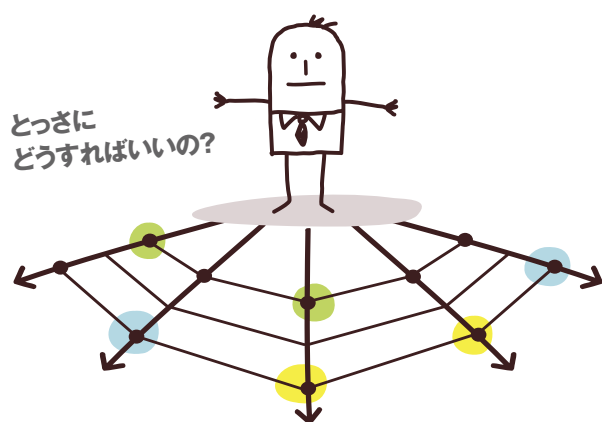


精神科ならではの ファーストエイド(応急処置)と、 とっさの声かけ



ファーストエイド(応急処置)の基本はどの科であっても同じはずですが、精神科には精神科ならではの特別な患者さんの状態・状況があり、判断に迷うケースがたくさんあります。

精神科は日々ファーストエイドが必要になるわけではありませんので、いざという時の対応に自信がある人のほうが少ないと思われます。皆が「これでいいのかな」と不安をかかえつつ対応しているはずです。

そこでこの特集では、精神科で実際に起きたケースを再現し、写真を多様しながら、ファーストエイドのノウハウを解説していきます。

〈特集監修〉

三上剛人 (みかみたけひと)

吉田学園医療歯科専門学校救急救命学科 学科長

日本救急看護学会では教育委員、JNYEC(外傷看護コース)インストラクター、FA(ファーストエイド)インストラクターを務める。医療教授システム学会理事、救急看護認定看護師会副会長。著書に、『緊急・応急処置Q&A』(日本看護協会出版界)、『ナースならできておくべきすぐやる技術』(学研メディカル秀潤社)ほか。

〈特集監修&患者さん役モデル〉

中村創 (なかむらはじめ)

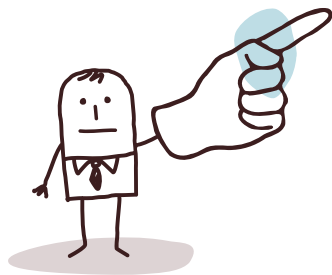
精神看護専門看護師、保健師/医療法人資生会千歳病院 看護主任

2003年に日本赤十字北海道看護大学を卒業、浦河赤十字病院に勤務。内科外科急性期病棟を経て精神科病棟で働く。日常生活支援、SST、退院支援などに従事。それに加え地域での精神保健活動にも参加する。浦河赤十字病院退職後2年間、デイサービス勤務で介護の現場に身を置き、2009年より現職場である千歳病院に勤務。2015年に札幌市立大学看護学研究科博士前期課程を修了、精神看護専門看護師を取得。3人の子供たちと遊ぶ時が、唯一退行を許される時間であるが、その時間確保ができないのが悩み。



[看護師さん役モデル] 木村恵美 [撮影協力] 医療法人資生会千歳病院 [カメラマン] 吉田貴貴 (Studio Green)

これが 「とっさの場面で 必要な対応の ポイント」だ!



右表に、とっさの場面で最初に必要となる対応のポイントをまとめました。

言葉かけはその場その場で、合うものと合わないものを必要に応じて判断するようにしてください。例えば「大丈夫ですか?」はすべてのケースで使えますが、ケース②のようにカミソリで手首を自傷したような場合に「今、先生を呼びますね」を最初に発してしまうと、かえってケースが複雑化することもあります。患者さんの安全を保てると思われる言葉をかけるよう心がけてください。

アセスメント
○自傷他害のリスクの情報収集とアセスメントをする 1) 表情、動作、発言の確認 2) 主にクローズドな質問で状況把握をする ○それ以外の情報収集とアセスメントをする
言葉かけ
○その場その場に合った具体的な言葉かけ例 1) 大丈夫ですか? 2) お困りでしょう 3) お手伝いしましょうか? 4) 心配なのですが… 5) 痛みはどうですか? 6) 苦しいところはありますか? 7) 何かしてほしいことはありませんか? 8) 楽になるようにお手伝いさせてください 9) びっくりしたでしょう 10) 大丈夫ですよ 11) 私がついています 12) 今、先生を呼びますね 13) 言いたいことがあったら何でも言ってください 14) どんな姿勢が楽ですか? 15) ここの具合はどうですか? 16) (沈黙)
配慮
○おびえさせないために、「近づく時」「触れる時」「1つ1つの処置をする時」は十分な説明をする。そんな時の言葉かけ例 1) ～しますよ 2) 次は～しますよ 3) ～するので少し楽になるはずです ○介入はできるだけ本人の了解を得て行う(嫌がっても、やめるのではなく十分説明する)。そんな時の言葉かけ例 1) ～しますがいいですか? 2) ～のために～させてください 3) 痛かったり心配だったりしたらおっしゃってください
環境
○周囲の状況把握 1) 安全に処置ができる場所の確保 2) 他の患者への対応 ○発見直後の再事故や再自殺企図の防止 ○人手を集める ○患者を一瞬でも1人にしない